

学習指導要領に準拠する

ICTプロフィシエンシー検定を

利用した授業実践報告と

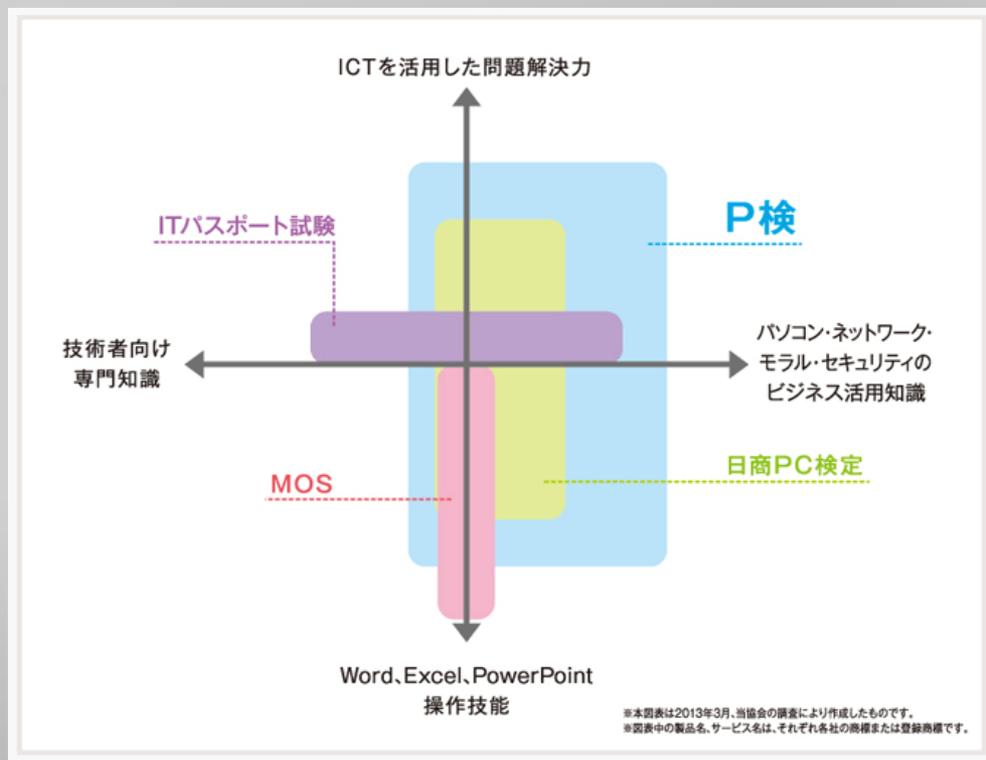
その展望に関する考察

愛知県立瀬戸北総合高等学校 田中 健

ICTプロフィシエンシー協会 足立 大樹

ICTプロフィシエンシー検定とは

◎ICT活用に関する知識や技能、問題解決力など
幅広く情報分野を網羅している資格試験



授業実践に至った背景

① パソコン教室の代替案として

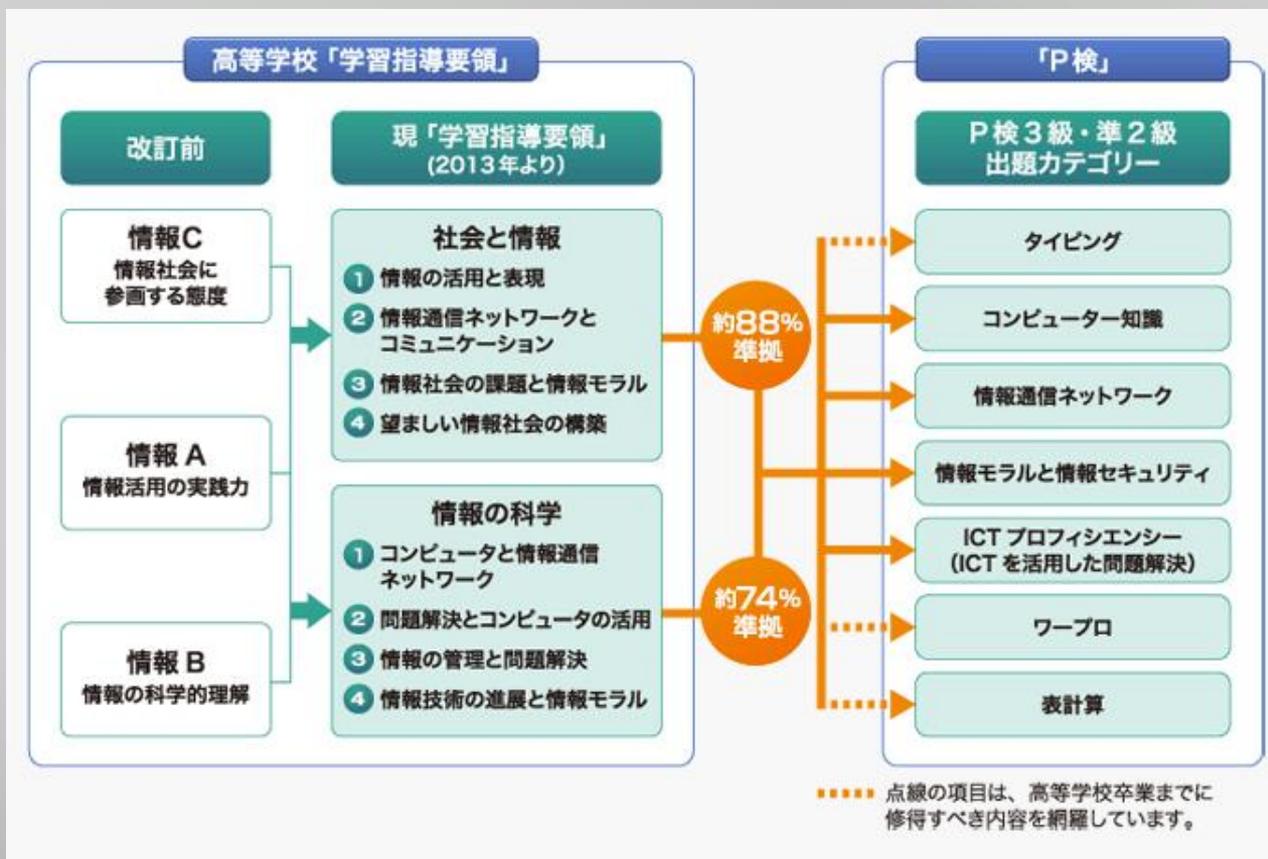
(情報科担当教員の指導力向上)

- 文部科学省の調査によれば、共通教科情報科の担当教員の約3割が免許外教科担任となっているが、今後、情報科の指導を充実していく上で、こうした状況を改善していく必要がある。各都道府県教育委員会等においては、情報科免許状を有する者を計画的に採用・配置し、あるいは現職教員の情報科免許状保有を促進するなどして、免許外教科担任や臨時免許状による担任を解消するよう務める必要がある。また、共通必修履修科目

文部科学省 教育課程部会 「情報ワーキンググループ とりまとめ」より

授業実践に至った背景

② 学習指導要領に準拠していること



実践内容

- ・学校設定科目「情報実務(2/3単位)」にて実施
- ・副教材としてP検協会オフィシャル教材使用

・模擬試験プログラムを随時活用



- ・1学期に3級(高校中級レベル)、
2学期に準2級(上級レベル)合格を評価規準とする

実践内容

①年間行事計画への組み入れ

1学期： 7月19日(火) 終業式前日

2学期： 12月20日(火) 終業式前日

3学期： 3月7日(火) 高校入試直前

「再チャレンジチケット」は長期休暇中に使用

実践内容

②評価・評定の算出方法

1学期： 模擬試験プログラム 3級

2学期： 模擬試験プログラム 準2級

3学期： 3級・準2級に準じたペーパーテスト

実践内容

③生徒の反応

3級： 「社会と情報」の学習内容に似ていた記憶にあったので解きやすかった

準2級： 内容がより専門的に、細かくなった
オフィスソフトの操作が難しかった

実践内容

④実践総括

- ・学習内容が広範囲に亘るため
オフィスソフトの操作習得のみに特化した
「パソコン教室」からの脱却を図れる
- ・普通教科「情報」に取り入れるには、学習内容を
学期ごとに徐々に深化させることが必須
→年間学習指導計画の緻密な調整が不可欠

◎試験内容と測られる能力の概要

3 級	<p>入社時に要求されるICT活用スキルを有する人材</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 基本的なICT活用による職務の遂行と問題解決が、人を頼らずにできる □ 基本的なICT知識・スキルを有する
--------	--

タイピング	①タイピング	タイピングテスト
一般問題	②コンピューター知識	選択式テスト・その他
	③情報通信ネットワーク	
	④情報モラルと情報セキュリティ	
プロフィエンス	⑤ICTを活用した問題解決	
実技	⑥ワープロ	実技テスト ※2
	⑦表計算	実技テスト ※2

<ul style="list-style-type: none"> □ 基幹業務処理システムの操作(データ入力、結果確認など) □ ネットワーク上にある情報の収集・加工 □ 簡単なホームページの作成・修正 □ SNSなどの新しいサービスの理解 	<ul style="list-style-type: none"> □ ネットワーク上のプリンターや共有フォルダーへの接続と利用 □ インターネットの接続設定 	<ul style="list-style-type: none"> □ ファイルやフォルダーの適切な管理 □ 入出力装置の特徴と活用方法の理解 □ 記憶媒体ごとの特徴の理解と利用 □ トラブルにおける確認項目の理解と対処 	<ul style="list-style-type: none"> □ 議事録、トラブル状況報告、業務改善提案などの文書作成 □ ビジネスレターの作成 □ 社内文書の定型フォーム作成 	<ul style="list-style-type: none"> □ 計算式や入力支援機能を盛り込んだ見積書など、効率的な定型フォーム作成 	<ul style="list-style-type: none"> □ ウイルス対策の実施 □ セキュリティ対策の実施 □ 個人情報保護の実践 □ 情報に関する制度や法令の理解 □ 知的財産権・著作権保護の実践
--	--	---	---	--	---

今後の展望

- ① 共通教科「情報」としての現状の底上げ
- ② 高大接続改革に活用される可能性

(大学入学者選抜)

- 大学入学者選抜において情報科の科目を出題科目とする場合は、個別の計算やアルゴリズム、ハードウェアに関する技術の詳細など、個別的な知識の量をいたずらに問うのではなく、情報科において育む資質・能力を踏まえ、情報や情報技術に関する知識が概念化・構造化されているかであるとか、事象をモデル化して捉えたり、アルゴリズムを表現したり、情報システムの構造を理解したりする能力を身に付けているかなど、大学における学修に必要な能力をどの程度身に付けているかが問われるべきである。なお、特定のアプリケーション、プログラミング言語等についての理解を必要としたり、それらの利活用の経験の有無等に影響されたりする出題は避けられるべきである。

文部科学省 教育課程部会 「情報ワーキンググループ とりまとめ」より